

路盤材材料試験結果報告書

依頼者：株式会社 早出川建設

材料名：粒度調整碎石(M-40)川砕

材料産地：五泉市 論瀬 地内

令和 8 年 3 月

本間道路株式会社 試験センター

〒959-1604 新潟県五泉市論瀬8803番地1

TEL:0250-42-5560

FAX:0250-47-7071

試験概要

依頼者：株式会社 早出川建設

材料名：粒度調整砕石(M-40)川砕

材料産地：五泉市 論瀬 地内

試験期間：自 令和 8 年 1 月 20 日
至 令和 8 年 3 月 27 日

試験内容：試験内容は以下のとおりである。

- | | | |
|---------------------------|-------|------------|
| 1) 骨材のふるい分け試験 | …………… | JIS A 1102 |
| 2) 粗骨材の密度および吸水率試験 | …………… | JIS A 1110 |
| 3) ロサンゼルス機による粗骨材のすり減り減量試験 | …………… | JIS A 1121 |
| 4) 硫酸ナトリウムによる骨材の安定性試験 | …………… | JIS A 1122 |
| 5) 土の液性限界・塑性限界試験 | …………… | JIS A 1205 |
| 6) 突固めによる土の締固め試験 | …………… | JIS A 1210 |
| 7) 修正CBR試験 | …………… | 舗装調査・試験法便覧 |

試験会社：本間道路株式会社 試験センター

路盤材材料試験結果一覧表

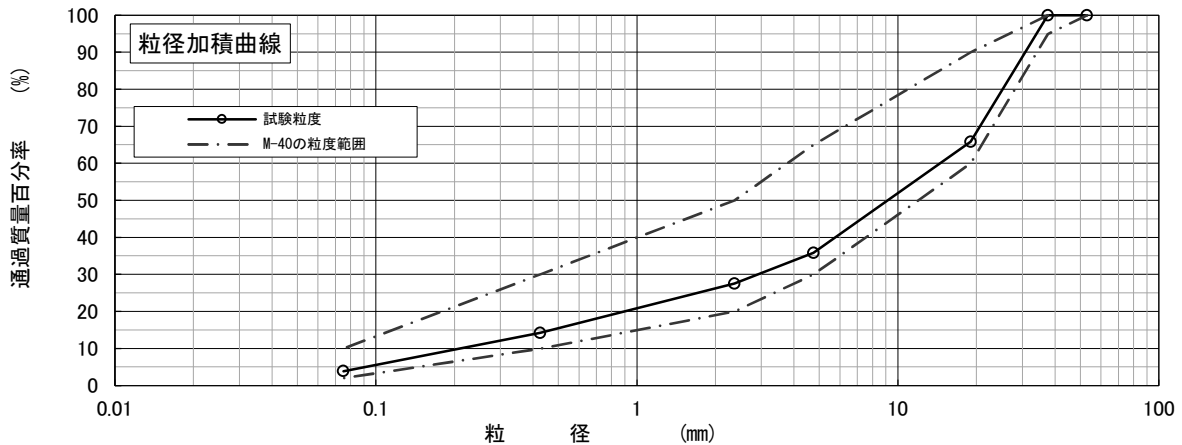
材 料 名 : 粒度調整碎石(M-40)川砕

試 験 年 月 日 : 2026年3月27日

用 途 : 上層路盤

整 理 担 当 者 : 樋山 義弘

試 験 項 目		試 験 規 格	試 験 値	規 格 値	
一 般	含水比(搬入時) (%)	JIS A 1203	—		
	密度・吸水率	表 乾 密 度 (g/cm ³)	JIS A 1109 JIS A 1110	2.63	
		か さ 密 度 (g/cm ³)		2.60	
		見 掛 密 度 (g/cm ³)		2.68	
		吸 水 率		1.15	
	コン シス テン シー	液 性 限 界 (%)	JIS A 1205	N.P	
		塑 性 限 界 (%)		N.P	
		塑 性 指 数		N.P	4以下
	すり減り減量 (%)	JIS A 1121	18.0	50以下	
	損 失 量 (%)	JIS A 1122	5.8	20以下	
異 物 混 入 率 (%)	※1	—			
粒 度 特 性	通 過 質 量 百 分 率 (%)	53 (mm)	100.0	100	
		37.5	100.0	95 ~ 100	
		31.5			
		26.5			
		19	65.8	60 ~ 90	
		13.2			
		4.75	35.8	30 ~ 65	
		2.36	27.5	20 ~ 50	
		0.425	14.2	10 ~ 30	
		0.075	3.9	2 ~ 10	
締 固 め 特 性	試 験 方 法	JIS A 1210	E-b法		
	最 大 乾 燥 密 度 (g/cm ³)		2.118		
	最 適 含 水 比 (%)		5.5		
	修 正 CBR (%)		舗装調査・試験法便覧	118.8	80以上



備考) ※1 コンクリート系・アスファルト系再生材利用の手引き(案)

JIS A 1110	粗骨材の密度および吸水率試験
------------	-----------------------

試料番号	粒度調整砕石 (M-40) 川砕	試験年月日	2026年3月5日
試料産地	五泉市 論瀬 地内	試験者	樋山 義弘

試験時の水温 20 °C 骨材の最大寸法 13.2 mm

試験水温時の水の密度 $\rho_w = 0.9982$ g/cm³

測定番号	1	2	3	4
① 表乾試料+容器質量 (g)	3953.6	3958.1		
② 容器質量 (g)	586.3	584.0		
③ 表乾試料質量 (g)	①-②	3367.3	3374.1	
④ (かご+試料)水中質量 (g)	2087.2	2093.8		
⑤ かごの水中質量 (g)	0.0	0.0		
⑥ 試料の水中質量 (g)	④-⑤	2087.2	2093.8	
⑦ 表乾密度 (g/cm ³)	③・ ρ_w / (③-⑥)	2.63	2.63	
平均値	2.63			
⑧ 乾燥後の試料質量 (g)	3329.0	3335.7		
⑨ かさ密度 (g/cm ³)	⑧・ ρ_w / (③-⑥)	2.60	2.60	
平均値	2.60			
⑩ 見掛密度 (g/cm ³)	⑧・ ρ_w / (⑧-⑥)	2.68	2.68	
平均値	2.68			
⑪ 吸水率 (%)	(③-⑧) / ⑧ × 100	1.15	1.15	
平均値	1.15			

備考

調査件名 路盤材 材料試験

試験年月日 2026年 3月 13日

試験者 樋山 義弘

試料番号(深さ) 粒度調整砕石 (M-40) 川砕

25

液性限界試験

落下回数

含水比	容器 No.		
	m_a g		
	m_b g		
	m_c g		
	ω %		

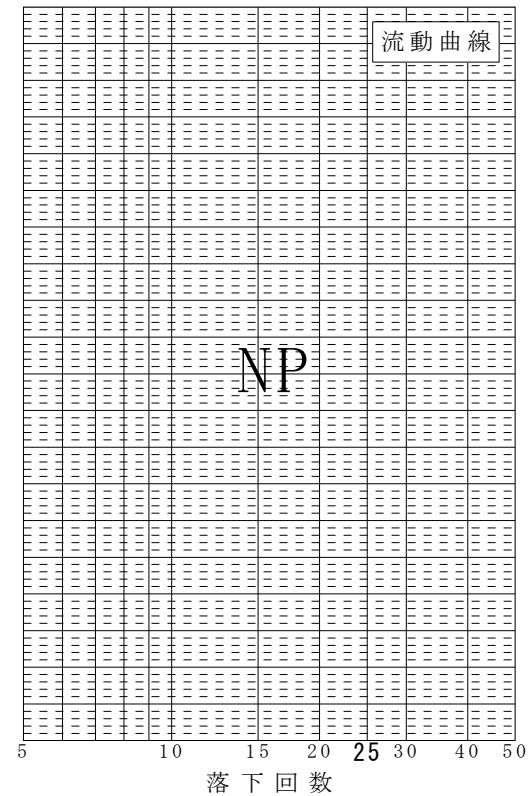
落下回数

含水比	容器 No.		
	m_a g		
	m_b g		
	m_c g		
	ω %		

塑性限界試験

含水比	容器 No.		
	m_a g		
	m_b g		
	m_c g		
	ω %		

液性限界 ω_L %	塑性限界 ω_P %	塑性指数 I_P
NP	NP	NP



試料番号(深さ)

液性限界試験

落下回数

含水比	容器 No.		
	m_a g		
	m_b g		
	m_c g		
	ω %		

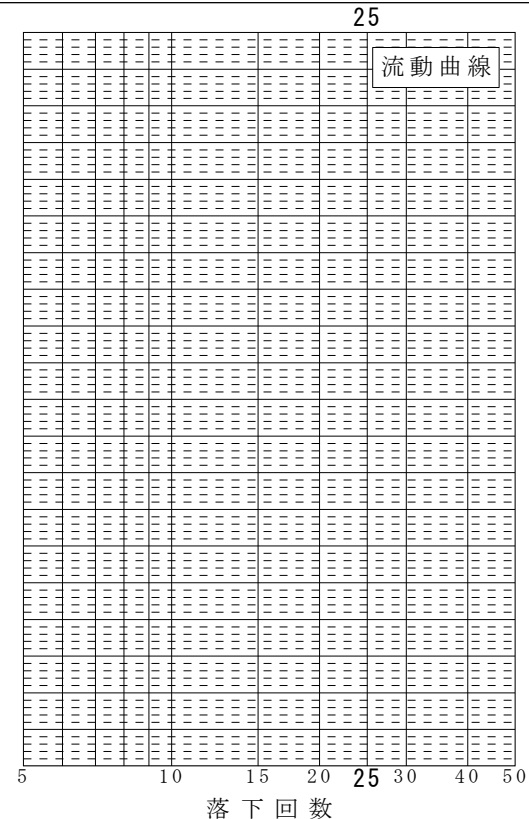
落下回数

含水比	容器 No.		
	m_a g		
	m_b g		
	m_c g		
	ω %		

塑性限界試験

含水比	容器 No.		
	m_a g		
	m_b g		
	m_c g		
	ω %		

液性限界 ω_L %	塑性限界 ω_P %	塑性指数 I_P



特記事項

砂分多く、試験不可。

JIS A 1122	骨 材 の 安 定 性 試 験
------------	-----------------

調 査 名 : 路盤材材料試験 試験年月日: 2026年3月27日

試 料 番 号: 粒度調整砕石 (M-40) 川砕 試験場所 : 本間道路(株) 試験センター

採 取 場 所: 五泉市 論瀬 地内 試 験 者: 樋山 義弘

試験用溶液の種類: 硫酸ナトリウム飽和溶液 繰返し回数: 5 回

試験用溶液の比重: 1.166 溶液の温度: 20 °C

測定番号	ふるいの呼び寸法で 区分した各群の粒径 の範囲 (mm)		①	②	③	④	⑤	⑥
			ふるい分け試験		試験前の各群 の試料質量 (g)	試験後の各群 の試料質量 (g)	各群の試料の 損失質量百分 率 (%)	各群別骨材の 損失質量百分 率 (%)
	通る ふるい	留まる ふるい	残留質量 (g)	各群の質量 百分率 (%)			(1-④) / (③) ×100	② × ⑤ / 100
1	53	37.5		0.0	—	—	—	—
	37.5	31.5		9.7	1500.5	1304.1	13.1	1.3
	31.5	19		37.5	1000.3	925.6	7.5	2.8
	19	13.2		14.6	750.2	708.8	5.5	0.8
	13.2	9.5		9.5	500.0	477.4	4.5	0.4
	9.5	4.75		17.2	300.0	293.6	2.1	0.4
	4.75	2.36		11.5	200.0	196.0	2.0	0.2
	合 計			100.0	骨材の損失百分率 (%)		Σ⑥	
2	53	37.5		0.0	—	—	—	—
	37.5	31.5		9.7	1500.8	1336.1	11.0	1.1
	31.5	19		37.5	1000.7	918.1	8.3	3.1
	19	13.2		14.6	750.4	715.5	4.7	0.7
	13.2	9.5		9.5	500.0	482.1	3.6	0.3
	9.5	4.75		17.2	300.0	293.9	2.0	0.3
	4.75	2.36		11.5	200.0	197.5	1.3	0.1
	合 計			100.0	骨材の損失百分率 (%)		Σ⑥	

備考 20 mm より大きい粒径の骨材数 個
 試験後異状が認められた骨材数 個

平 均 = 5.8

JIS A 1102	骨材のふるい分け試験
------------	------------

調査名・目的 路盤材材料試験	試験年月日 2026年3月2日
試料番号 粒度調整砕石 (M-40) 川砕	使用場所 本間道路(株)試験センター
試料採取場所 五泉市 論瀬 地内	試験者 樋山 義弘

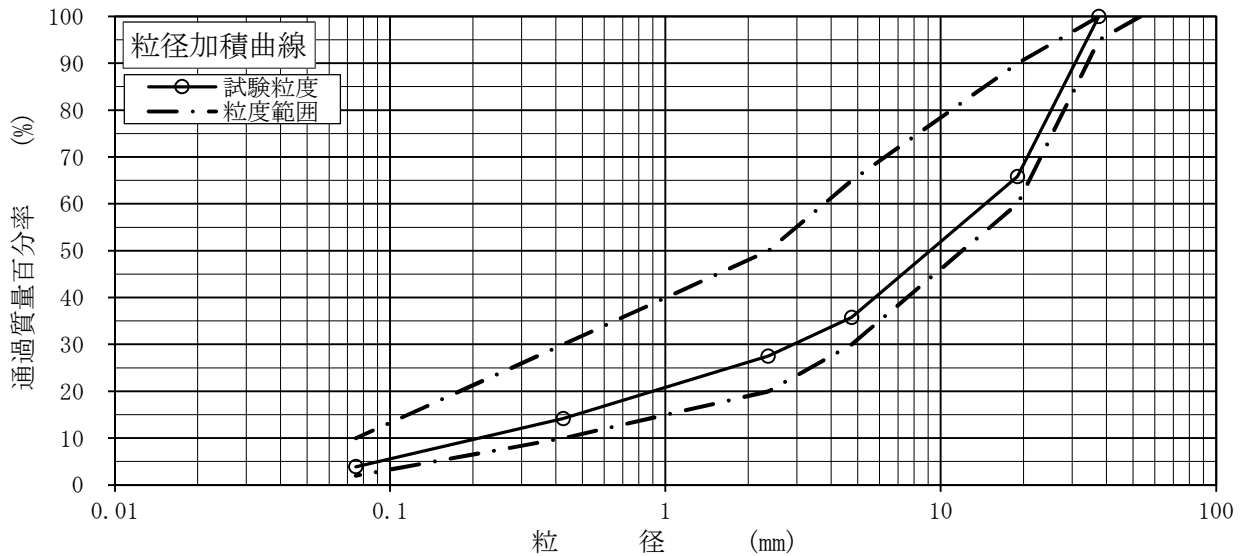
(全試料+容器)質量	15877.3 g	(2.36mm通過試料+容器)質量	11513.7 g
容器質量	0.0 g	容器質量	0.0 g
全試料質量	15877.3 g	2.36mm通過試料質量	4363.6 g
2.36mm残留試料質量	11513.7 g	全試料に対する2.36mm通過試料の割合	27.483 %

2.36mmふるい残留試料のふるい分け

ふるい (mm)	加積残留試料+容器質量 (g)	容器質量 (g)	加積残留質量 (g)	加積残留率 (%)	通過質量百分率 (%)
75					
* 53					
* 37.5			0.0	0.0	100.0
31.5					
26.5					
* 19			5425.9	34.2	65.8
13.2					
9.5					
* 4.75			10197.2	64.2	35.8
* 2.36			11513.7	72.5	27.5

2.36mmふるい通過試料のふるい分け

ふるい (mm)	加積残留試料+容器質量 (g)	容器質量 (g)	加積残留質量 (g)	加積残留率 (%)	通過質量百分率 (%)	全試料に対する通過質量百分率 (%)
1.18						
0.6						
* 0.425			2103.1	48.2	51.8	14.2
0.3						
0.15						
* 0.075			3740.4	85.7	14.3	3.9



JIS A 1210 JGS 0711	突固めによる土の締固め試験（測定）
------------------------	-------------------

調査件名 路盤材 材料試験

試験年月日 2026年 2月 18日

試料番号(深 さ) 粒度調整碎石 (M-40) 川砕

試験者 樋山 義弘

試験方法		E-b	土質名称				
試料の準備方法		乾燥法	ランマー質量 kg	4.5	モ ー ル ド	内径 cm	15
試料の使用方法		非繰返し法	落下高さ cm	45		高さ ¹⁾ cm	12.5
含水比	試料分取後 ω_0 %		突固め回数 回/層	92		容量 V cm ³	2209
	乾燥処理後 ω_1 %		突固め層数 層	3	質量 m_l ²⁾ g	3880	
測定 No.		1	2	3	4		
(試料+モールド)質量 m_2 ²⁾ g		8592	8666	8753	8815		
湿潤密度 ρ_t g/cm ³		2.133	2.167	2.206	2.234		
平均含水比 ω %		2.7	3.6	4.6	5.5		
乾燥密度 ρ_d g/cm ³		2.077	2.092	2.109	2.118		
含水比	容器 No.	224	212	252	266		
	m_a g	5277.0	5351.5	5730.1	5803.2		
	m_b g	5152.9	5186.0	5514.8	5544.6		
	m_c g	580.4	576.0	865.8	880.6		
	ω %	2.7	3.6	4.6	5.5		
含水比	容器 No.						
	m_a g						
	m_b g						
	m_c g						
	ω %						
測定 No.		5	6	7	8		
(試料+モールド)質量 m_2 ²⁾ g		8841	8810				
湿潤密度 ρ_t g/cm ³		2.246	2.232				
平均含水比 ω %		6.5	7.4				
乾燥密度 ρ_d g/cm ³		2.109	2.078				
含水比	容器 No.	257	264				
	m_a g	5803.9	5762.6				
	m_b g	5500.1	5423.7				
	m_c g	859.9	852.5				
	ω %	6.5	7.4				
含水比	容器 No.						
	m_a g						
	m_b g						
	m_c g						
	ω %						

特記事項

- 1) 内径15 cmのモールドの場合はスペーサーディスクの高さを差引く。
- 2) モールドの質量は底板を含む。

$$\rho_d = \frac{\rho_t}{1 + \omega / 100}$$

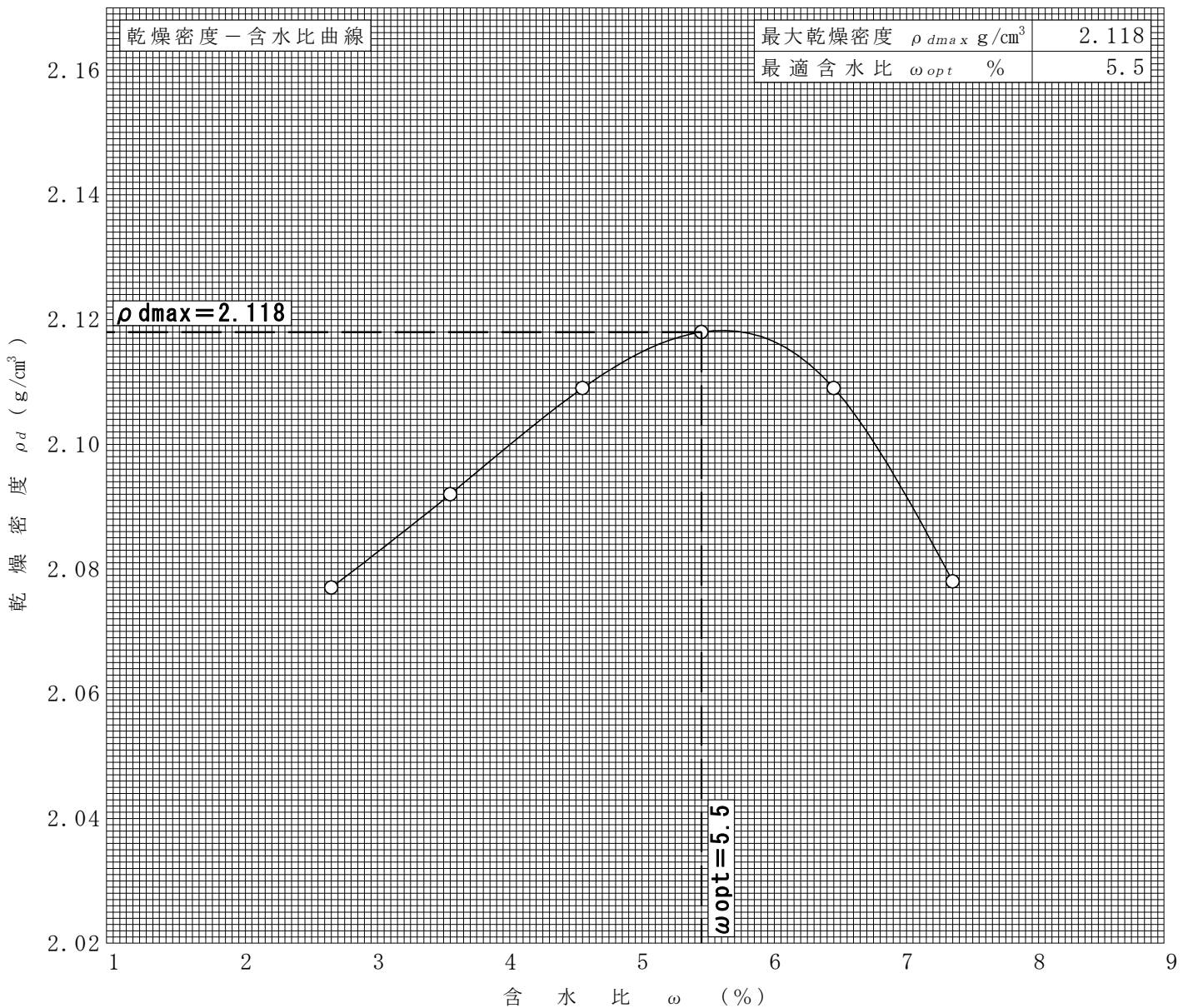
調査件名 路盤材 材料試験

試験年月日 2026年 2月 18日

試料番号(深 さ) 粒度調整碎石 (M-40) 川砕

試験者 樋山 義弘

試験方法	E-b		土質名称					
試料の準備方法	乾燥法		ランマー質量 kg	4.5	土粒子の密度 ρ_s g/cm ³			
試料の使用方法	非繰返し法		落下高さ cm	45	試料調整前の最大粒径 mm		37.5	
含水比	試料分取後 ω_0 %			突固め回数 回/層	92	モールド	内径 cm	15
	乾燥処理後 ω_1 %			突固め層数 層	3		高さ ¹⁾ cm	12.5
測定 No.	1	2	3	4	5	6	7	8
平均含水比 ω %	2.7	3.6	4.6	5.5	6.5	7.4		
乾燥密度 ρ_d g/cm ³	2.077	2.092	2.109	2.118	2.109	2.078		



特記事項

1) 内径15 cmのモールドの場合はスペーサーディスクの高さを差引く。

ゼロ空気間隙曲線の計算式

$$\rho_{dsat} = \frac{\rho \omega}{\rho \omega / \rho_s + \omega / 100}$$

JIS A 1211 JGS 0721	C B R 試験 (初期状態, 吸水膨張試験)
------------------------	-------------------------

調査件名 路盤材 材料試験 試験年月日 2026年 2月 26日

試料番号(深 さ) 粒度調整砕石 (M-40) 川砕 試験者 樋山 義弘

試験方法	締固めた土	ランマー質量 kg	4.5	土質名称		
突固め方法	修	落下高さ cm	45	自然含水比 ω_n %		
試料準備	準備方法	非乾燥法	突固め回数 回/層	92	最適含水比 ω_{opt} %	5.5
	空気乾燥前含水比 %		突固め層数 層	3	最大乾燥密度 ρ_{dmax} g/cm ³	2.118
	試料調整後含水比 ω_0 %		モールド	内径 cm	15	荷重板質量 kg
		高さ ¹⁾ cm		12.5	モールド容量 V cm ³	2209

供試体 No.		1		2		3		
含水比	容器 No.							
	m_a g							
	m_b g							
	m_c g							
	ω_1 %							
平均値 ω_1 %		5.5		5.5		5.5		
密度	(試料+モールド)質量 $m_2^{2)}$ g	11826		11753		11858		
	モールド質量 $m_l^{2)}$ g	6882		6824		6902		
	湿潤密度 ρ_t g/cm ³	2.238		2.231		2.244		
	乾燥密度 ρ_d g/cm ³	2.121		2.115		2.127		
吸水膨張試験	水浸時間 h	時間	変位計の読み	膨張量 mm	変位計の読み	膨張量 mm	変位計の読み	膨張量 mm
	0							
	1							
	2							
	4							
	8							
	24							
	48							
	72							
	96							
(試料+モールド)質量 $m_3^{2)}$ g		11886		11804		11913		
膨張比 γ_e %								
湿潤密度 ρ'_t g/cm ³								
乾燥密度 ρ'_d g/cm ³								
平均含水比 ω' %								

特記事項

- 1) スペーサーディスクの高さを差引く。
- 2) モールドの質量は有孔底板を含む。

$$\gamma_e = \frac{\text{供試体の膨張量 (mm)}}{\text{供試体の最初の高さ (125mm)}} \times 100$$

$$\rho'_t = \frac{m_3 - m_l}{V (1 + \gamma_e / 100)}$$

$$\rho'_d = \frac{\rho_d}{1 + \gamma_e / 100}$$

$$\omega' = \left(\frac{\rho'_t}{\rho'_d} - 1 \right) \times 100$$

調査件名 路盤材 材料試験

試験年月日 2026年 3月 2日

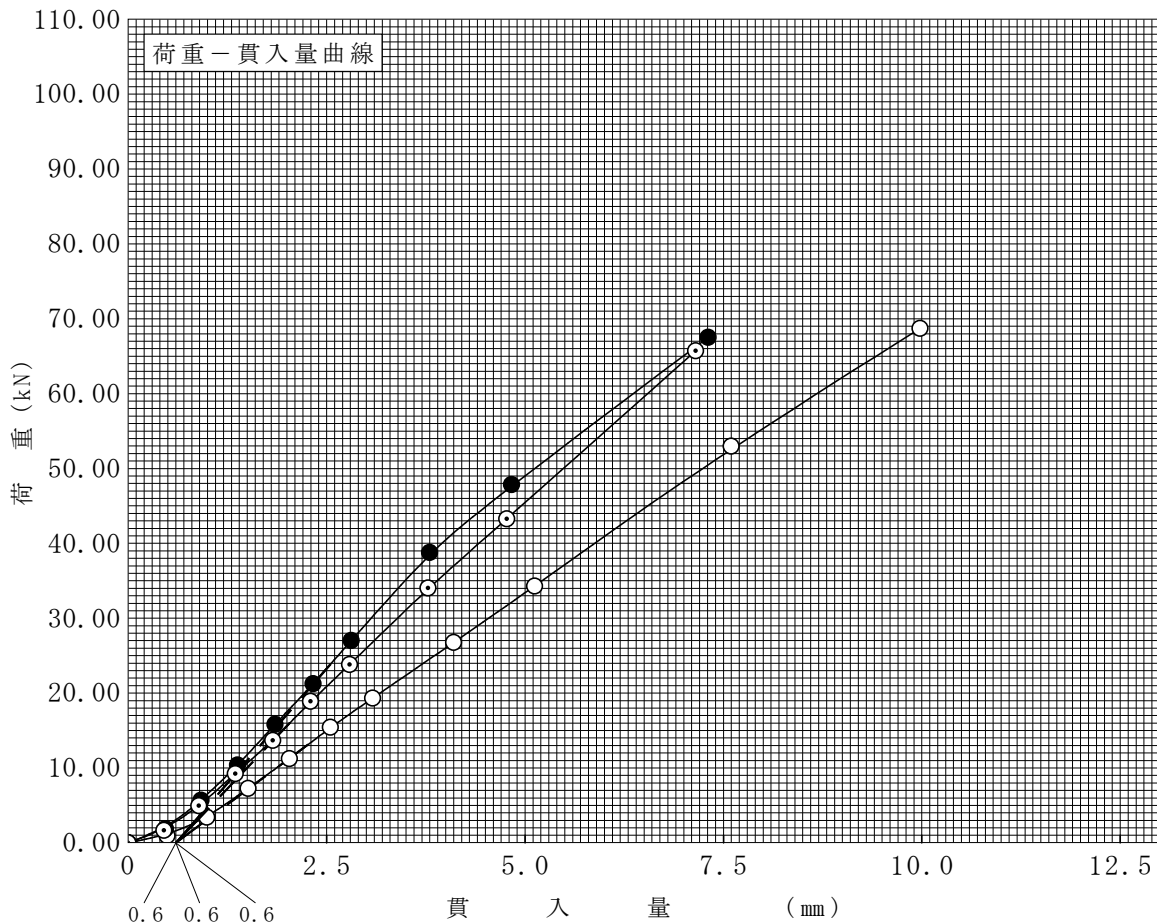
試料番号(深 さ) 粒度調整碎石 (M-40) 川砕

試 験 者 樋 山 義 弘

試験方法	締固めた土	ランマー質量	kg	4.5	土質名称	
突固め方法	修	落下高さ	cm	45	空気乾燥前含水比	%
試料の準備方法	非乾燥法	突固め回数	回/層	92	自然含水比 ω_n	%
試験条件	水浸	突固め層数	層	3	最適含水比 ω_{opt}	%
養生条件	日空气中	モールド	内径	cm	最大乾燥密度 ρ_{dmax}	g/cm ³
	4日水浸		高さ ¹⁾	cm		

供 試 体 No.			1	2	3
吸水膨張試験	前	含水比 ω_1 %	5.5	5.5	5.5
		乾燥密度 ρ_d g/cm ³	2.121	2.115	2.127
	後	膨張比 γ_e %			
		平均含水比 ω' %			
		乾燥密度 ρ'_d g/cm ³			
貫入試験		試験後の含水比 ω_2 %			
		貫入量2.5mmにおけるCBR %	145.2	227.4	201.6
		貫入量5.0mmにおけるCBR %	190.5	270.7	256.8
		C B R %	190.5	270.7	256.8

平均 C B R %
239.3



特記事項
1) スペーサーディスクの高さを差引く。

○—○ 1
●—● 2
○—○ 3

貫入量 mm	2.5	5.0
荷 1 供試体 No.	19.463	37.902
荷 2 供試体 No.	30.467	53.864
荷 3 供試体 No.	27.015	51.104
標準荷重 kN	13.4	19.9

JIS A 1211 JGS 0721	C B R 試験 (初期状態, 吸水膨張試験)
------------------------	-------------------------

調査件名 路盤材 材料試験 試験年月日 2026年 2月 26日

試料番号(深 さ) 粒度調整砕石 (M-40) 川砕 試験者 樋山 義弘

試験方法	締固めた土	ランマー質量 kg	4.5	土質名称		
突固め方法	修	落下高さ cm	45	自然含水比 ω_n %		
試料準備	準備方法	非乾燥法	突固め回数 回/層	42	最適含水比 ω_{opt} %	5.5
	空気乾燥前含水比 %		突固め層数 層	3	最大乾燥密度 ρ_{dmax} g/cm ³	2.118
	試料調整後含水比 ω_0 %		モールド	内径 cm	15	荷重板質量 kg
			高さ ¹⁾ cm	12.5	モールド容量 V cm ³	2209

供試体 No.		4		5		6		
含水比	容器 No.							
	m_a g							
	m_b g							
	m_c g							
	ω_1 %							
平均値 ω_1 %		5.5		5.5		5.5		
密度	(試料+モールド)質量 $m_2^{2)}$ g	11666		11682		11671		
	モールド質量 $m_l^{2)}$ g	6883		6850		6859		
	湿潤密度 ρ_t g/cm ³	2.165		2.187		2.178		
	乾燥密度 ρ_d g/cm ³	2.052		2.073		2.064		
吸水膨張試験	水浸時間 h	時間	変位計の読み	膨張量 mm	変位計の読み	膨張量 mm	変位計の読み	膨張量 mm
	0							
	1							
	2							
	4							
	8							
	24							
	48							
	72							
	96							
(試料+モールド)質量 $m_3^{2)}$ g		11729		11752		11737		
膨張比 γ_e %								
湿潤密度 ρ'_t g/cm ³								
乾燥密度 ρ'_d g/cm ³								
平均含水比 ω' %								

特記事項

- 1) スペーサーディスクの高さを差引く。
- 2) モールドの質量は有孔底板を含む。

$$\gamma_e = \frac{\text{供試体の膨張量 (mm)}}{\text{供試体の最初の高さ (125mm)}} \times 100$$

$$\rho'_t = \frac{m_3 - m_l}{V (1 + \gamma_e / 100)}$$

$$\rho'_d = \frac{\rho_d}{1 + \gamma_e / 100}$$

$$\omega' = \left(\frac{\rho'_t}{\rho'_d} - 1 \right) \times 100$$

調査件名 路盤材 材料試験

試験年月日 2026年 3月 2日

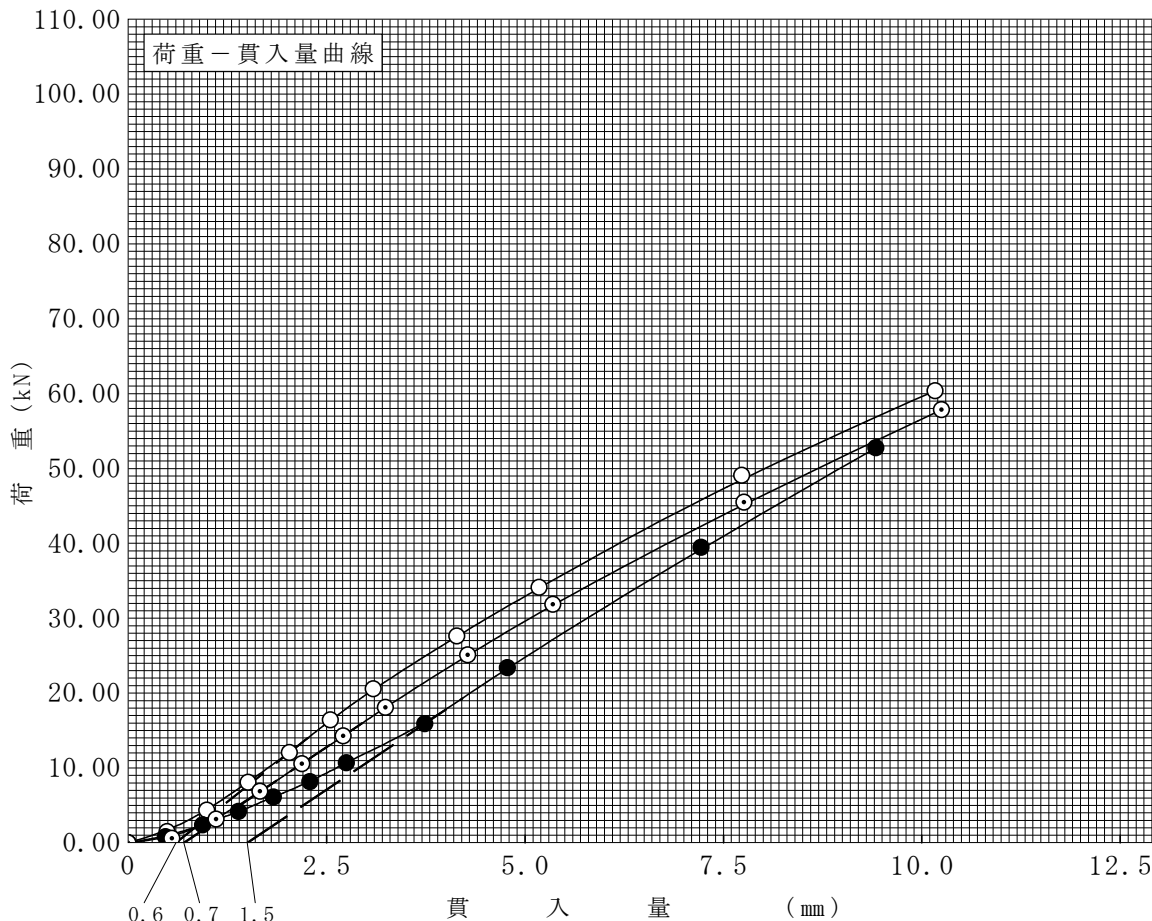
試料番号(深 さ) 粒度調整碎石 (M-40) 川砕

試 験 者 樋 山 義 弘

試験方法	締固めた土	ランマー質量	kg	4.5	土質名称	
突固め方法	修	落下高さ	cm	45	空気乾燥前含水比	%
試料の準備方法	非乾燥法	突固め回数	回/層	42	自然含水比 ω_n	%
試験条件	水浸	突固め層数	層	3	最適含水比 ω_{opt}	%
養生条件	日空气中	モールド	内径	cm	最大乾燥密度 ρ_{dmax}	g/cm ³
	4日水浸		高さ ¹⁾	cm		

供試体 No.		4	5	6	
吸水膨張試験	前	含水比 ω_1 %	5.5	5.5	5.5
		乾燥密度 ρ_d g/cm ³	2.052	2.073	2.064
	後	膨張比 γ_e %			
		平均含水比 ω' %			
		乾燥密度 ρ'_d g/cm ³			
貫入試験	試験後の含水比 ω_2 %				
	貫入量2.5mmにおけるCBR %		153.3	133.0	132.7
	貫入量5.0mmにおけるCBR %		183.6	174.1	169.7
	C B R %		183.6	174.1	169.7

平均 C B R %
175.8



特記事項
1) スペーサーディスクの高さを差引く。

貫入量 mm	2.5	5.0	
荷重	供試体 No. 4	20.543	36.546
	供試体 No. 5	17.827	34.646
	供試体 No. 6	17.776	33.778
標準荷重 kN	13.4	19.9	

JIS A 1211 JGS 0721	C B R 試験 (初期状態, 吸水膨張試験)
------------------------	-------------------------

調査件名 路盤材 材料試験 試験年月日 2026年 2月 26日

試料番号(深 さ) 粒度調整砕石 (M-40) 川砕 試験者 樋山 義弘

試験方法	締固めた土	ランマー質量 kg	4.5	土質名称		
突固め方法	修	落下高さ cm	45	自然含水比 ω_n %		
試料準備	準備方法	非乾燥法	突固め回数 回/層	17	最適含水比 ω_{opt} %	5.5
	空気乾燥前含水比 %		突固め層数 層	3	最大乾燥密度 ρ_{dmax} g/cm ³	2.118
	試料調整後含水比 ω_0 %		モールド	内径 cm	15	荷重板質量 kg
		高さ ¹⁾ cm		12.5	モールド容量 V cm ³	2209

供試体 No.		7		8		9		
含水比	容器 No.							
	m_a g							
	m_b g							
	m_c g							
	ω_1 %							
平均値 ω_1 %		5.5		5.5		5.5		
密度	(試料+モールド)質量 $m_2^{2)}$ g	11410		11479		11440		
	モールド質量 $m_l^{2)}$ g	6815		6881		6897		
	湿潤密度 ρ_t g/cm ³	2.080		2.081		2.057		
	乾燥密度 ρ_d g/cm ³	1.972		1.973		1.950		
吸水膨張試験	水浸時間 h	時間	変位計の読み	膨張量 mm	変位計の読み	膨張量 mm	変位計の読み	膨張量 mm
	0							
	1							
	2							
	4							
	8							
	24							
	48							
	72							
	96							
(試料+モールド)質量 $m_3^{2)}$ g		11485		11542		11501		
膨張比 γ_e %								
湿潤密度 ρ'_t g/cm ³								
乾燥密度 ρ'_d g/cm ³								
平均含水比 ω' %								

特記事項

- 1) スペーサーディスクの高さを差引く。
- 2) モールドの質量は有孔底板を含む。

$$\gamma_e = \frac{\text{供試体の膨張量 (mm)}}{\text{供試体の最初の高さ (125mm)}} \times 100$$

$$\rho'_t = \frac{m_3 - m_l}{V (1 + \gamma_e / 100)}$$

$$\rho'_d = \frac{\rho_d}{1 + \gamma_e / 100}$$

$$\omega' = \left(\frac{\rho'_t}{\rho'_d} - 1 \right) \times 100$$

調査件名 路盤材 材料試験

試験年月日 2026年 3月 2日

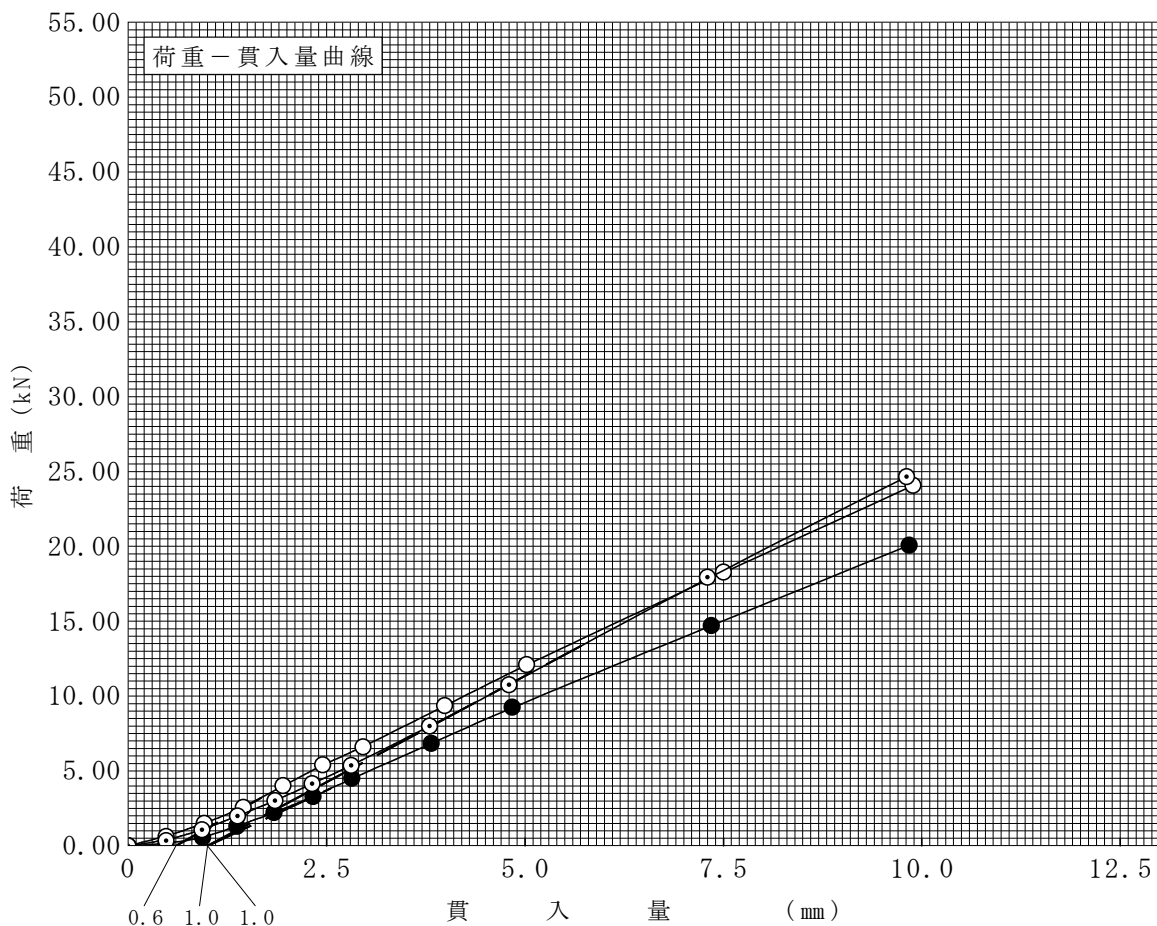
試料番号(深 さ) 粒度調整碎石 (M-40) 川砕

試 験 者 樋 山 義 弘

試験方法	締固めた土	ランマー質量	kg	4.5	土質名称	
突固め方法	修	落下高さ	cm	45	空気乾燥前含水比	%
試料の準備方法	非乾燥法	突固め回数	回/層	17	自然含水比 ω_n	%
試験条件	水浸	突固め層数	層	3	最適含水比 ω_{opt}	%
養生条件	日空气中	モールド	内径	cm	最大乾燥密度 ρ_{dmax}	g/cm ³
	4日水浸		高さ ¹⁾	cm		

供 試 体 No.		7	8	9	
吸水膨張試験	前	含水比 ω_1 %	5.5	5.5	5.5
		乾燥密度 ρ_d g/cm ³	1.972	1.973	1.950
	後	膨張比 γ_e %			
		平均含水比 ω' %			
		乾燥密度 ρ'_d g/cm ³			
貫入試験	試験後の含水比 ω_2 %				
	貫入量2.5mmにおけるCBR %		52.2	45.5	53.7
	貫入量5.0mmにおけるCBR %		68.0	59.2	71.3
	C B R %		68.0	59.2	71.3

平均 C B R %
66.2



特記事項

1) スペーサーディスクの高さを差引く。

貫入量 mm	2.5	5.0
荷重		
供試体 No. 7	6.994	13.534
供試体 No. 8	6.094	11.777
供試体 No. 9	7.198	14.197
標準荷重 kN	13.4	19.9

修正 C B R 試 験

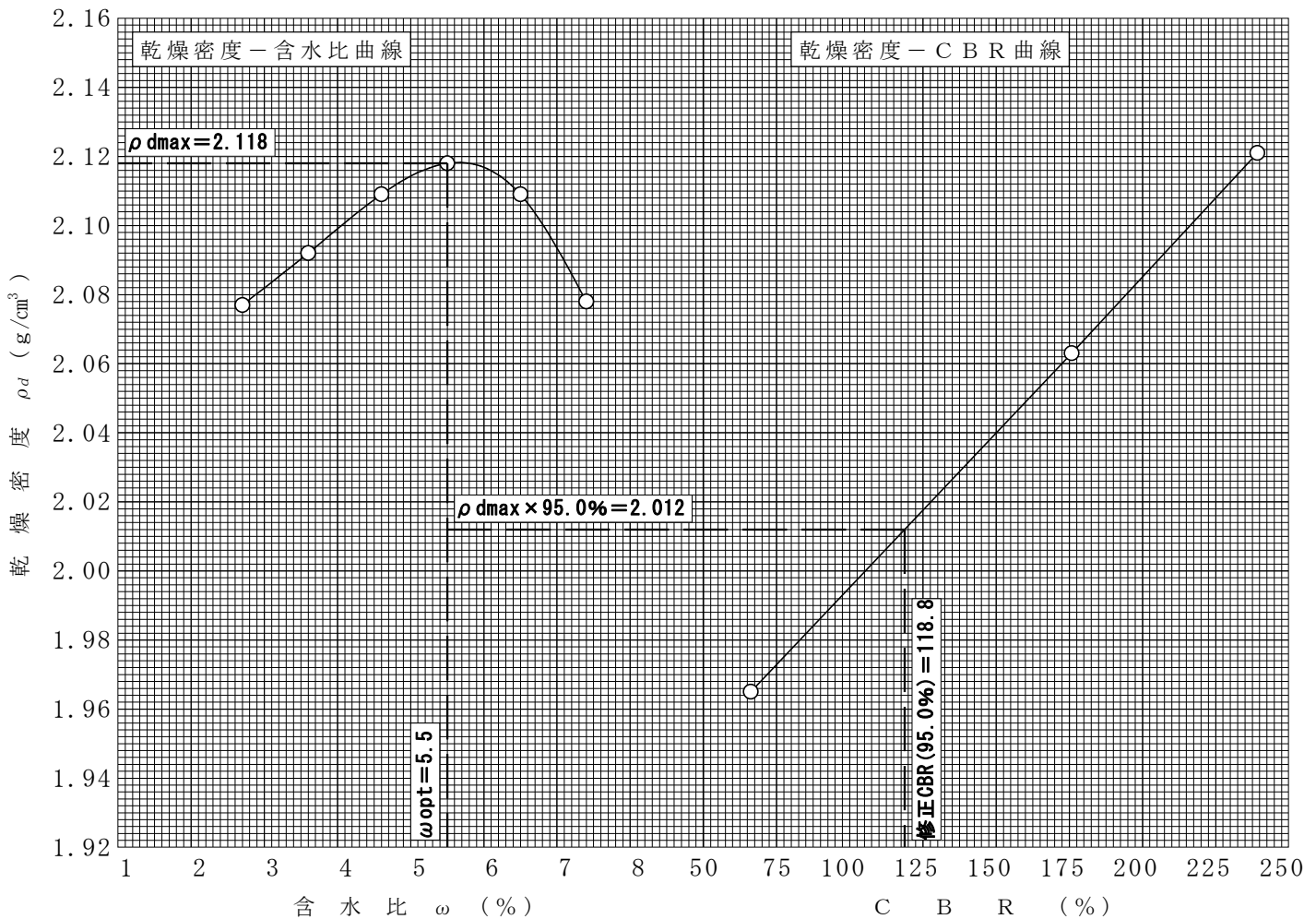
調査件名 路盤材 材料試験

試験年月日 2026年 3月 2日

試料番号(深 さ) 粒度調整砕石 (M-40) 川砕

試 験 者 樋 山 義 弘

供 試 体 No.	92-1, 2, 3			42-4, 5, 6			17-7, 8, 9		
突 固 め 回 数 回/層	92 (3層)			42 (3層)			17 (3層)		
乾 燥 密 度 ρ_d g/cm ³	2.121	2.115	2.127	2.052	2.073	2.064	1.972	1.973	1.950
平 均 値 ρ_d g/cm ³	2.121			2.063			1.965		
貫入量2.5mmにおけるCBR %	145.2	227.4	201.6	153.3	133.0	132.7	52.2	45.5	53.7
平 均 値 %	191.4			139.7			50.5		
貫入量5.0mmにおけるCBR %	190.5	270.7	256.8	183.6	174.1	169.7	68.0	59.2	71.3
平 均 値 %	239.3			175.8			66.2		
ランマー質量 kg	4.5	最大乾燥密度 ρ_{dmax} g/cm ³	2.118	締 固 め 度 %	95.0				
		最適含水比 ω_{opt} %	5.5	修正 C B R %	118.8				



特記事項